



映像業界

日経映像 制作本部

本多活起さん

映像素材の保存に悩む制作会社にとって、救世主のような存在に。

取材させていただいた日経映像制作本部は、主にテレビ番組の制作を行なっています。テレビ番組制作のための撮影取材は、現在でもビデオテープに収録するスタイルが主流だそうです。例えば30分の全編取材番組を制作する場合、40分のHDカムビデオテープが10本~20本程度必要になります。60分のドキュメンタリー番組なら、HDV60分テープが100本近く必要。放送後、これらのテープは、すぐに廃棄されたり、記録内容を消去することはまれで、そのままのかたちで保存されます。レギュラー番組の場合、総集編などの制作に過去の取材テープが必要になることは少なくありません。また、別の番組で、過去に撮影した都市風景や人物の取材映像を二次使用するケースも多くあります。

「年に2回の産業廃棄物の回収のときに、保存の必要がないと判断されたテープは捨てられますが、二次利用の可能性もあるので、大量のテープが次々と社内にとまっていくことになります。これが悩みの種でした。」本多さんはそのように話し始められました。

編集方式の進化によりテープ保存からデータ保存へ。

日経映像には取材テープの保存のための地下室があり、テープは段ボールに詰めて保管されるのですが、数年のサイクルで満杯になってしまいます。満杯になると、保存された映像を吟味して、不要なものは廃棄するという作業を繰り返しているのですが、その間にも倉庫に入り切らないテープは、事務所内のロッカーの上などに置かれるようになり、**事務所内にビデオテープを入れたダンボールが溢れかえる始末です。**

”

と本多さん。

一方で、コンピューター技術の進歩により、2000年以降、映像編集でのファイル化が急速に進行しました。それとともに、制作本部での作業のワークフローも大きく変わったそうです。



撮影をしたビデオテープを、コンピューターや専用の装置をつかって圧縮データ化を行い、そのデータを3TB程度の容量の外付けハードディスクに収録します。容量3TBのハードディスクには、HDカムビデオ40分テープで約70本程度のデータを収録することができるわけです。番組ディレクターはこのハードディスクに自分のノートパソコン等を接続して編集作業を行います。編集されたデータは、ポストプロダクション(外部の編集スタジオ)で、放送用のビデオテープに書き出され、さらにテロップなどの加工が施されて放送番組が完成するといった流れです。

こうしたワークフローが確立したときから、制作本部では、映像データの保存にはビデオテープではなく編集で使ったハードディスクを用い、テープは再利用することにしたそうです。

“ “
これによって、保存に必要なコストは約10分の1となり、保存に必要なスペースは約30分の1になりましたね。
” ”

と本多さんは話します。

しかし、ハードディスクは電気製品であり、クラッシュの可能性もあり、映像を長期保存するには不安も大きかったのです。そのような経緯から、日経映像の制作本部では2013年9月から、LTOテープによる映像データの保存を行なうことになりました。

すべてのデータをまとめて保存でき、コストパフォーマンスの良さを実感。

LTOテープに保存するための機器は、ユニテックス製のLTOテープ装置「LTFS LT50 USB」と、アップル製のノートパソコン「MacBook Pro 13インチ」で構成されています。LTOテープに外付けハードディスク内のデータをコピーする時は、デスクトップ上に表示されたLTOドライブのフォルダに、外付けハードディスクのフォルダを、ドラッグ&ドロップ。

“ “
LTFS LT50 USBを採用した理由はコストパフォーマンスの良さですね。LTFS LT50では人と費用をかけずに、ノンリニア編集のためデジタイズした映像データを、そのままの形式でLTOに保存出来るため、再デジタイズの必要はありません。映像だけでなく、番組の台本、CGなど、すべてのデータをまとめて保存することもできます。また、LTOに保存した映像が必要になった場合は、編集用のノートパソコンにドラッグ&ドロップでコピーすれば、簡単に行えます。
” ”

こうした点が採用のポイントになったそうです。



タイトなスケジュール下での迅速性。

LTOは長手方向に巻かれた磁気テープという構造のため、目的とするフォルダをクリックしてから、フォルダ内のファイル内容を表示するまでに、1~2分程度の時間がかかってしまうのが難点だとも話します。

“ “
テレビ制作の現場では、明日の編集のため今日中に素材をそろえなければならぬ、といったタイトなスケジュールでの進捗が多く、この点はLTO装置の特性とはいえ、解決できればと願う課題ですね。
” ”

保存コストはハードディスクの約2分の1、必要なスペースも約2分の1に。

課題は残るとは言え、LTOテープの導入によって、映像を保存するコストは、ハードディスクの約2分の1に、保存に必要なスペースも約2分の1になりました。これにより、大量のテープに事務所を占領される事態から解放されたことの意義は大きいそうです。また、従来、テープで保存していた時代には、残すか廃棄するかという、保存価値の判断には慎重にならざるを得なかったそうですが、LTOは安価で場所もとらないので、ナーバスになることなく、映像を保存出来るようになったとも。

“ “
LTOによる映像アーカイブシステムは、映像素材の保存に悩む制作会社にとって、救世主のような存在といえるのではないのでしょうか。
” ”

本多さんは頼もしい言葉で、お話を締めくくってくださいました。



FUJIFILM
富士フイルム株式会社

記録メディア事業部
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 TEL.03-6271-2081 FAX.03-6271-2185

「テープストレージの情報ポータルサイト」
www.tape-storage.net

テープストレージネット  で、検索。

